

Initial closed trocar entry for laparoscopic surgery: Technique, umbilical cosmesis, and patient satisfaction

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-11-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坂本, 愛子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002215

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2410 号

Initial closed trocar entry for laparoscopic surgery: Technique, umbilical cosmesis, and patient satisfaction

(当院の腹腔鏡手術における第一穿刺法：方法と臍創の美容性と患者満足度)

坂本 愛子 (さかもと あいこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

順天堂医院における腹腔鏡手術は、1993年の開始から第一穿刺は以下の closed 法で行っていた。臍下縁を横切開し、用手的に腹壁を牽引しベレス針を挿入。気腹の後、患者腹部を手拳で左右から圧迫し腹部をより膨隆させ、セイフティートロッカーと呼ばれていた cutting trocar を挿入。しかし 2002 年に重篤な後腹膜大血管損傷を経験した。臍と腰椎前面までの距離が確保できているのかを見直すために、各手順での距離を腹腔内からスケールを見て計測した。用手的に腹壁を牽引したり、気腹後に両側から手拳で圧迫する方法では、臍の腹壁内側から腰椎前面までの距離は稼げず、むしろ腹壁を厚くさせ腹腔内までの距離を大きくしていた。臍輪をコッヘルで牽引する方が腹壁内側から腰椎前面までの距離が大きく稼げることがわかった。そこで、1. ベレス針やトロッカーを挿入時には臍輪をコッヘルで牽引する方法に変更した。加えて 2. 臍を完全に反転させ、腹壁が薄く腹腔内までのアクセス距離の短い「臍底」を縦切開すること、3. ベレス針をそのまま拡張させるブレードレストロッカー (STEP トロッカー) を使用する方法に変更した。2002 年以降、現在まで 9000 例を越える腹腔鏡手術で後腹膜血管損傷は経験していない。しかし、かつて臍下縁を横切開していた時には遭遇しなかった術後の臍の変形を目にするようになった。そこで 4 孔式腹腔鏡下筋腫核出術の 6 ヶ月後に臍の変形に関するアンケートを行った。61 例の返答があり、およそ半数 52.5% が何かしらの変形があると答えた。中央癒合型の変形は 20 例 (32.8%)、臍内に隆起があると答えたのは 9 例 (14.8%) で、9 例 (14.8%) が放射状の架橋であった。61 例中、9 例 (14.8%) で、moderately high (n=7) or high concern (n=2) で不満がある、と答えた。反転させた皮膚が臍内に戻りにくいためと考えられる隆起型の変形より、切開創が長軸方向に短縮した癒痕拘縮と考えられる中央癒合型の方が頻度が高かった。安全な closed 法は確立されたといっても過言ではないが、閉創後の美容的な面で今後の課題が残った。